

ふるさとで たくましく生きる 生徒を育てる 「YANADANI Children」 の活動を通して

久万高原町立柳谷中学校教諭
宇都岡 貴秀
(久万高原町)



困難であると考え
ている。

本校(平成20年
度…全校生徒12
名)では、以前か
ら地域の環境を
活用した学習を
行っている。その
経験を活かし、ふ
るさと柳谷の良
さを町内外に発
信していくこと
を目指した「やな
だにチルドレン」
を設立した。ふる

さと柳谷に密着した商品を生産・販売し、
生じた利益をふるさと柳谷の広報活動や
福祉活動に役立てていく模擬会社であ
る。生徒は、ふるさと柳谷の産業を活か
した商品づくりを行うために、農業・林
業・文化活動を開始した。

「やなだにチルドレン」発足

柳谷中学校区である久万高原町柳谷
(旧柳谷村)は、少子・高齢化が進行し
ている山村地域である。また、旧久万町
や松山市への人口流出が激しく、生徒数
も年々減少の一途をたどっている。生徒
は、ふるさと柳谷について、自然・文化・
伝統の良さに気付いているものの、少
子・高齢化が進んでいることに不安を抱
き、将来ふるさと柳谷で生活することは



やきもち作り

● 柳谷の郷土料理を自分た
ちで作り、町内にアピ
ルする。
● 久万林業まつりで、やき
もちを100パック売っ
て4万円の収入を目指す。

目標達成に向けた取組

野菜づくりは、夏休みに「道
の駅」でピーマンとナスを販
売することを目指し、農業を
営んでいるゲストティーチャ
ーの指導のもと、4月より土
づくりを開始した。より元氣
な野菜を育てるにはどのような肥料が適
切か、どのような手入れが必要かなどを
考えながら汗を流して取り組んだ。そし
て、7月から11月にかけて、ピーマン50
kgとナス40kgを収穫し、販売した。

コースターづくりは、9月のやなだに
産業まつりで
の販売を目指
し、林業を営ん
でいるゲスト
ティーチャー
からいただい
の間伐材を利
用し、4月より
コースターの
生産を開始し
た。どのよう

- 柳谷の自然を活かした立派な野菜を
作る。
- 野菜を売って1万円以上の収入を目
指す。

林業(コースターづくり)

- 柳谷の木の良さを伝える。
- コースターを120枚生産し、3万
円以上の収入を目指す。

文化(郷土料理づくり)



やきもち販売

郷土料理招待会



は、10月の久万林業まつりで、やきもちを販売することを目指し、地域食文化の研究を行っているゲストティーチャー指導のもと、やきもちづくりの練習を行った。どのよう丸めればあんな感じがみださなくなるのか、どのよう工夫すればやきもちの大きさが揃うのかなどを考えながら練習に励んだ。そして、一番のまつりでは練習の成果を発揮し、全員で計445個のやきもちを生産し、完売した。また、コンニャク、アマゴの塩焼き、青大豆豆腐などの郷土料理の調理実習にも

工具を用いれば切断面を水平にできるのか、どのようなデザインが消費者に好まれるのかなど、試行錯誤しながら製作枚数を重ねていった。そして、全員で計134枚のコースターを生産し、完売した。また、ゲストティーチャーの林業作業場で、最先端の林業技術を体験する学習にも取り組んだ。

取り組んだ。

ふるさとを広め、ふるさとに恩返し



土づくり

売上げの一部を、各販売に必要な看板やビラの製作に充てた。ふるさと柳谷の良さを町内外に広めるために、どのようなフレーズが魅力的か、どのようなデザインが効果的かなどを考えながら、様々な技巧で表現を試みた。また、「やなだにチルドレン」のロゴも考案し、幅広く活用した。さらに、売上げの一部を、ふるさと柳谷への福祉活動で還元した。お世話になっていない地域へ何か恩返しはできないかと考え、夏休みに地域の福祉協議会で行われているデイサービスに参加し、高齢者との交流を図った。また、郷土料理招待会を開き、生徒が作った郷土料理をふるまうことよって、ゲストティーチャーや給食センターの職員への感謝の気持ちを表した。



YANADANI Childrenのロゴ

将来、ふるさと柳谷で生活ができる生徒が増加している。理由として、「柳谷で生活したいという強い気持ちがあればできる」、「柳谷の伝統を受け継ぐために生活したいと思う私がいるから」、「新たな産業を開発して活性化させれば生活は可能である」が挙げられていた。

生徒は、自分たちで起業した会社を経営することによって、自分たちの未来を自分たちの力でより良いものに変えていこうとする気持ちを高めることができたものと考えられる。地方自治の力が試されている今日こそ、私たちは、自分たちが育ったふるさとを大切に思い、ふるさとでたくましく生きる生徒を育てていかなければならない。

